

令和7年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

学校教育目標

- (1)「高き理想」を持ち、その実現に向け、自ら考え行動できる人材の育成。
- (2)「心ゆたかに」生きて行く人間力あふれた人材の育成。
- (3)地域の学び・経験を通して自信を高め、地域を支え、地域をリードする有為な人材の育成。

重点目標

- (1)いじめや人権侵害のない安全安心な学校環境を、職員と生徒が中心となり協働しながらつくり上げていく。
- (2)生徒一人一人が考え、めざす進路選択が実現できるよう、ライフプランを意識した進路・学習指導を生徒・保護者と共に計画・実行に向け取り組んでいく。
- (3)自分の考えを取組を、周囲にむけ適切に表現できるよう、学習活動・生徒会活動などの諸活動を通じ経験を積めるよう支援する。

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない 2: やや不十分 1: 不十分

\*「評価項目」の( ) 数字は、今年度重点目標の項目番号

領域	対象	R07 評価項目	R07 評価の観点	本年度の成果と課題	評点	具体的な改善策・向上策
教育活動	学習指導	(2) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。朝学習を通して基礎学力の定着が図られたか。	朝学習への職員体制をTTとし、スムーズな取り組みができるように促した。学習習慣を定着させることで、基礎力診断テストの成績が伸びた生徒もいた。	4	SPIや各種検定などの目標を設定することで、目的をもって学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。学習に向かう体制づくりのため、朝学習のTTは来年度も継続したい。
		授業評価による授業改善	体験学習、授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。	地域と連携した体験学習や協働活動を取り入れた授業展開ができた。年2回の授業アンケート、研究授業を通じ、授業改善の機会が多く作れた。	4	地域連携体験学習を継続、さらに多くの教科で取り組めるように研究する。タブレットを使った本校における効果的な授業の研究をしていく。
	進路指導	(2) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適切に活かしているか。	各学年時期を見て必要な情報を冊子等を通じて生徒に渡し、進路の現状について確認をしている。	4	早い段階からの進路への意識付け及びオープンキャンパスや企業見学の参加も促したい。
		進路希望の実現と職業理解の促進	働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや企業勉強会、ワーキングセミナー等の実施ができたか。	1年は将来を見据えて、進路を大きくくりで考えさせており、2年は次年度の就職・進路に繋がる指導として各種ガイダンスを実施。3年は進路実現に向け活動し、就職・進学ともに多くの生徒は決定している。	4	更なる企業研究及びしつかりとした試験準備が必要。進路ガイダンス・企業説明会も引き続き適宜実施したい。
	生徒指導	(1) 基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	校内巡視、頭髮検査、生徒面談など多くの職員で指導にあたった。ルールが守れていない生徒に対しては、継続して指導した。	4	校内巡視の継続。指導が必要な生徒への定期的な面談の実施。生徒指導に関係する注意等については、HRで随時行う。
		生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	相談室を当番制で開設し、学校全体で支援する体制が取れている。状況によりチームで対応、関係機関と連携も取れた。	4	今後さらに支援が必要な生徒の増加が予測されるので、関係機関との連携や教科担当者会など校内支援体制を取っていく。
ク生ラ徒ブ会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の主体的な活動を支援し、主体的・対話的な学びによる自己肯定感を育てることができたか。安全に配慮し、活動することができたか。	生徒会目標達成のため、昨年度に引き続き執行部企画「HATAビンゴウォーク」を実施。企画立案に時間がかかり、広報活動が不十分になってしまった。	4	文化祭では、熱中症予防や体調管理の観点から、日程調整や企画内容の精査を行う。執行部内で生徒会諸活動の目的を理解し、それを全校生徒に伝え共有して活動に取り組む。部室の使用状態の改善を継続して呼びかける。	
学校運営	組織運営	(1) 学校評価の充実	学校評価を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	学校評価の意見を共有し、対応すべき点はできた。アンケート回収率の向上が課題。	4	今後も生徒、保護者また地域からの意見を職員間で共有し、教育活動に生かしていく。
		情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	翌月曆を本人・家庭に配信し学校の予定を事前に共有できるようにした。梓川だよりを中学生や来校者に配布し行事の様子を伝えた。	4	連絡事項が本人・保護者と情報共有ができるよう引き続きメール配信を活用していく。梓川だよりを含め行事など学校の様子をHPに掲げる。
	地域連携	(2) 地域と連携した教育	地域と連携した学習や体験活動を通して、生徒の学習意欲を引き出しているか。	学年・コース・教科などで外部講師を活用したり、校外活動(実習)を活発に行うことができた。	5	引き続き、様々な学習活動の機会を得ることができるよう、地域の方との連携を深めていきたい。
	校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	ICTの活用や新たな学びについて研修を行い、教科指導で活用することができたか。公開授業・研究授業の振り返りが指導改善につながったか。	多くの授業で電子黒板の活用が進んでいる。また、職員のICTスキル定着のためオンライン職員会を設定した。公開授業や体験授業などのアンケートを集約し共有した。	4	・ロイロノートの活用がスムーズにできるよう、職員研修を設けた。 ・多くの先生方が教科を超えて授業見学ができるよう、校内の公開授業週間を積極的に活用してい
生徒の理解		多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	校内で研修日を設け、講師の先生をお呼びし、様々なケース対応についての理解を深めた。	4	校内研修を年間行事の段階で計画し、個々の具体的な生徒事案に対応した研修を実施したい。	